



祝 辞

中部経済産業局長 小川 秀樹

この度、財団法人名古屋市工業技術振興協会が創立25周年を迎えられたことに対し心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和54年9月に発足して以来今日まで、産業技術の普及啓発事業を積極的に推進され、地域における中小企業の技術の向上と産業の振興に大きな役割を果たしてこられました。これもひとえに歴代役員の方々をはじめ関係各位の御努力の賜であり、深く敬意を表する次第です。

さて、我が国経済は長期低迷から抜け出し、民需や輸出を中心に回復傾向にあります。しかし、地域経済の主体である中小企業の景況感は、依然として厳しい状況が続いています。

このため、景気回復の流れを中小企業に波及させ、地域経済の再生を確固たるものにし、持続的安定成長へと繋げていくことが強く求められています。

地域経済の活性化には、産業競争力を強化することが不可欠であり、技術開発、人材育成等の面での産学官連携の強化により、地域における創業、新事業の創出を活発化していくことが大きな課題となっています。

こうした中、当局におきましては、地域産業競争力強化の観点から、中堅・中小企業、大学等の人的ネットワークを通じて、技術、経営情報、資金といった経営資源を相互に補完し合い、世界に通用する新しい製品・事業の継続的創出を目指す産業クラスター計画の推進に鋭意取り組んでいます。

とりわけ、ものづくりの核となる技術研究開発等の要となる人材育成や特許技術等の創造、活用を目指した知的財産戦略の推進などを重点に各般の支援策を実施しているところです。

貴協会におかれましては、地域の技術交流活動の一翼を担う組織として、地域内外からその果たす役割に大きな期待が寄せられており、創立25周年を一つの契機として、今後とも名古屋市工業研究所と密接な連携のもと積極的な事業展開に御尽力いただきますとともに、地域の技術開発力強化及び地域経済の発展に益々貢献されますことを念願する次第です。

最後に貴協会の益々の御発展と関係各位の御繁栄を心より祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。



祝 辞

愛知県知事 神田 真秋

財団法人名古屋市工業技術振興協会が創立25周年の節目の年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴財団は、昭和54年に財団法人として設立されて以来、25年の永きにわたり当地域における企業の工業技術の向上を図り、産業の振興に寄与してこられました。そして、その積極的な活動により、現在では400を超える会員を擁するに至っています。これもひとえに、歴代の役員並びに会員の皆様の御尽力の賜物と、深く敬意を表する次第であります。

さて、本県は、昭和52年以降、製造品出荷額が27年連続日本一を誇る工業県であります。経済のグローバル化やIT革命の進展、地球的な規模での大競争時代の到来など、経済産業を取り巻く環境が大きく変化する中で、本県が引き続き活力を維持していくためには、ものづくりを支える技術力の強化を図ることは、極めて重要な課題であります。

こうした中、貴財団におかれましては、工業技術指導や教育訓練研修の開催をはじめ、会員企業の技術力の強化を図るための各種事業を実施しておられます。また、インキュベータ施設であるnabi金山やnabi白金を運営し、産・学・行政が協力して技術面・経営面での支援サービスを提供することにより、研究開発型の中小企業の発展など地域産業の振興に多大な貢献をいただいておりますことは、誠に心強い限りであります。

本県におきましては、産業技術研究所において、平成14年から基盤技術部を設置し、さらに平成16年から環境・エネルギー、ナノテク・新材料、ライフサイエンス担当の統括研究員を配置し、研究体制の強化を図っております。特に、企業との共同研究や中小企業への技術移転を想定した研究開発を実施し、その成果を積極的に普及してまいりますので、皆様方のさらなる御協力をお願いいたします。

終わりに、財団法人名古屋市工業技術振興協会の一層の御発展と皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

名古屋市長 松原 武久

このたび、財団法人名古屋市工業技術振興協会が昭和54年9月の設立以来、創立25周年を迎えられましたことに対し、心よりお慶び申し上げます。

早いもので20周年のご挨拶を申し上げてから5年の歳月が経過いたしました。この間、創立20周年の年に誕生した名古屋ビジネスインキュベータ白金（nabi / 白金）は平成4年度開館のnabi / 金山とともに着実な成果を挙げ、機動力を持つベンチャー企業の創業支援・育成に寄与されています。さらに、平成12年度より開始した中小企業生産基盤技術レベルアップ支援事業では、基盤技術産業の技術力を強化することにより、当地域の中小企業の実績を残されました。また、従来からの中小企業技術者研修事業、技術情報交流事業といった名古屋市からの委託事業の効果的運用にも引き続き努力され、すぐれた技術と独創性を持つ中小企業の育成に多大な効果を上げられる等、この5年間の貴協会のご活躍は、会長始め関係各位の時代を先取りした鋭い経営感覚の賜と、深く敬意を表する次第でございます。

わが国経済の基本はものづくりであり、日本経済の再生には、名古屋の産業において大きな比重を占める中小製造業の活力を高めることが重要であると考えます。名古屋市としましても、様々なリーディング産業の創造と研究開発の推進のためのサイエンスパーク事業の推進、意欲的な中小企業のステップアップ支援のための基盤技術産業の技術力強化、創業支援・起業家の育成のため創業支援拠点の整備等、元気が出る産業おこしを図り、地域力で魅力あるまちづくりを目指しております。名古屋市と当地域の民間企業との橋渡し役として貴協会の役割の重要性を改めて認識し、今後さらなるご活躍を期待しているところでございます。

最後に、財団法人名古屋市工業技術振興協会の一層のご発展と関係各位のますますのご繁栄を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせて戴きます。



ごあいさつ

財団法人名古屋市工業技術振興協会会長
（東洋電機株式会社 代表取締役社長）

松尾 隆徳

（財）名古屋市工業技術振興協会（名工振）は、この9月で満25才となりました。

25年前に名古屋市工業研究所（市工研）の技術を広く名古屋地区産業界とりわけ中小企業に伝播させ、産業界の育成・拡大を図るために、市工研と企業とのバインダー役として、名古屋市と協賛企業により財団法人として設立されました。

以来、関係者（名古屋市、市工研、参加企業、名工振職員）のご努力により今日では、全国でも注目される第1級の公設研究所のサポート組織となりました。

変化する産業界のニーズに応え、起業を目指すベンチャー企業にいち早くインキュベータ施設を開設して来たことも自慢の1つであります。

バブル崩壊後、日本経済はデフレに苦しんでおりますが、幸いにもこの名古屋地区は「ものづくり」産地として、立派に全国にその実力を示しております。自動車をリーダとする大きな産業集積の地ではありますが、市工研・名工振による中小企業への技術力向上プロジェクトと、まじめに息ながく取り組んで来た地元中小企業の努力の成果であることは、かくれた事実でありましょう。

21世紀に入りこれからの企業にとって必要なものは、絶えざる技術革新のもとで発揮される比較優位性のある技術であり、新製品であり、技能・ノウハウでありましょう。かつ、それらが自立した主体的なものであればなりません。さらに、それらが継続的に持続するものでなければなりません。

自立し、継続し、絶えず皮がむけつづける中小企業集団が産業界をささえる。結果として社会に役立つ中小企業となる。

この企業ニーズに応えることが、名古屋地区のものづくり産業の更なる発展につながります。ここに市工研・名工振の役割があり、まさしく名工振は技術分野での名古屋ものづくり企業へのサービス機関である訳であります。お客様のニーズから離れたサービス機関は存在しない事を肝に命じ、未来へ挑戦する名工振であり続けます。

皆様方の一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。ありがとうございました。

写真で見る協会の歩み (平成11年度～平成15年度)

平成11年度

9月10日

都市型工業団地3号団地名古屋ビジネスインキュベータ白金 (nabi / 白金) 開館



nabi / 白金開館記念テープカットの様様

11月9日

創立20周年記念式典・講演会・祝賀会



創立20周年記念式典の様様

1月24日

新春講演会 「21世紀を読む」
ユニー(株)名誉会長 西川俊男氏

平成12年度

6月1日

nabi / 金山シェアードルーム開設
創業前又は創業後1年以内の中小企業者で新事

業・新分野へ進出しようとするものへ貸スペースを提供

9月6日～13日

海外企業技術交流事業
ヘルシキンキ始め5都市の企業・産業施設見学



ストックホルム・エリクソン社前にて

8月

中小企業生産基盤技術レベルアップ支援事業の開始
定年退職された熟練技能者等をアドバイザーとして工場に派遣し、生産現場に即した技術指導を実施

1月24日

新春講演会「独創、創造、そして挑戦。」
㈱メニコン代表取締役会長 田中恭一氏

平成13年度

9月12日～21日

海外企業技術交流事業
ブタベスト始め7都市の企業・産業施設見学
11月8日

東海・北陸ブロック技術・市場交流プラザ名古屋大会開催(中小企業総合事業団・名古屋市と共催)
異業種交流グループ等の参加企業が多面的交流を通じて、新技術・新製品の開発、新分野の開拓等経営資源の総合的交流を図った。

1月22日

新春講演会 「時代の転換点に立って」

元愛知県副知事 甲斐一政氏



テクノプラザナゴヤ合同事業委員会の模様

(毎年実施)

平成14年度

8月28日～9月6日

海外企業技術交流事業

チューリヒ始め7都市の企業・産業施設見学

1月28日

新春講演会「日本のモノづくりの将来を考える～
世界の工場・中国の最新動向をふまえて」

一橋大学教授 関 満博氏



新春講演会(講師 関満博氏)

2月 協会基本計画2010を策定

評議員会、理事会で21世紀初頭における協会の事業運営にかかる長期方針「基本計画2010」を承認

平成15年度

5月

協会経営改善計画を策定

理事会で協会の経営課題の解消に向けた改善の取り組み計画を承認

8月26日

最新技術・施策セミナーの開始

賛助員企業を対象にした環境に関する講演と名古屋市工業研究所の最新研究紹介、施設見学等

10月1日

協会ホームページを開設

協会専用のURLを設けてホームページの内容を大幅に拡充し、賛助員のひろば、新製品・新技術紹介等を設ける。(http://www.meikosin.com/)



産業用ロボット特別教育の実技風景(毎年実施)

1月20日

新春講演会「非常識経営のすすめ」

未来悫 取締役相談役 山田昭男氏

平成16年度

5月25日

3代目会長に松尾隆徳東洋電機㈱代表取締役が就任

11月9日

創立25周年記念式典・講演会・祝賀会

財団法人名古屋市工業技術振興協会活動状況（平成11年度～平成15年度）

事項		平成11年度		
自主事業	工業技術指導	出張技術指導	12回	
		工業技術相談	303件	
		工業技術実務指導（知財担当者養成講座）	10社12人	
	教育訓練事業	産業用ロボット特別教育		101社136人
		経営戦略 管理者研修	新製品・新商品の開発	20社22人
			QCD 管理研修	（現場管理者） 25社27人
			ISO14001認証取得支援グループ指導 （内部環境監査員養成）（12年度より実施）	（ISO9000品質保証システム 構築セミナー） 9社11人
	講演会・ 情報提供事業	新春講演会の開催		151人
		最新技術・施策セミナーの開催（15年度より実施）		
		新商品カタログ展示		38社44小間
		「技術のひろば」の発行（年4回）		各1,500部
		図書館友の会事業		会員6名
		協会ホームページの開設と情報公開の充実 （15年度より実施）		
	交流事業	海外企業技術交流事業（12年度より実施）		
	都市型工業 団地事業	2号団地（nabi / 金山）の管理運営		9社
3号団地（nabi / 白金11年9月開館）の管理運営		18社		
その他	賛助員の状況（各年度末時点）		471社	
	協賛行事		49件	
受託事業	研修事業	中小企業技術者研修		14コース204社224人
		合同特別講義（技術講演会・交流会）		（202人）
		南京市・マレーシア技術者研修		2コース4人
	技術指導事業	中小企業生産基盤技術レベルアップ支援事業（12年度より実施）		
	技術情報 交流事業	技術融合化シンポジウムの開催（12年度より一本化）		工業技術シンポジウム425人 技術開発促進シンポジウム 120人
		データベースの構築・ 提供	データベース件数	74,574件
			目録の発行	3,000部
		産業技術図書館・ 情報交流フロアの 利用状況	図書館	15,686人
			照会件数	738件
			情報フロア	22,028人
		技術情報交流 PR 誌の 発行	交流事業紹介（年4回発行）	
	図書館案内		2,000部	
	新技術交流推進プラザの開催		4グループ46回	
	施設管理業務			施設の運転保守管理
	都市型工業団地事業	研修会等の開催		2回
相談事業		24件		
情報化推進事業		窓口相談	12回44件	
		講演会	164人	
	セミナー	6コース延べ204人		
新規創業支援事業（nabi / 金山シェアードルーム 入居者、12年6月設置、各年度末時点）				
工業技術関係団体 からの受託事業	異業種交流団体の事務受託		4団体	
	研究団体等の一部事務受託		7団体	

平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
15回	9回	8回	8回
176件	109件	120件	117件
13社14人	13社14人	18社18人	14社16人
108社146人	86社124人	77社115人	80社140人
18社22人	19社26人	14社16人	23社28人
パワーアップ研修)	(生産管理技術研修)		
9社11人	10社12人	9社10人	14社15人
3社6人(3社16人)	4社8人(4社28人)	4社8人(4社12人)	4社8人(4社12人)
142人	132人	280人	158人
			講演会72人、市工研の 研究紹介・見学会58人
34社36小間	34社35小間	26社27小間	21社21.5小間
各1,500部	各1,500部	各1,500部	各1,500部
会員4名	会員3名	(廃止)	
			延アクセス件数10,348件 (10月より)
14人	13人	13人	(中止)
20社	20社	20社	22社
25社	28社	23社	22社
455社	445社	428社	424社(平成16年10月8日現在434社)
49件	57件	48件	47件
14コース205社230人 (248人)	14コース216社238人 (271人)	13コース161社193人 191人	11コース152社178人 177人
2コース4人	2コース4人	2コース4人	2コース4人
8社60回	11社190回	11社132回	14社154回
354人	840人	572人	508人
78,395件	82,402件	85,731件	87,747件
3,000部	4,000部	2,300部	
12,276人	11,722人	10,908人	10,648人
327件	360件	556件	732件
17,078人	18,501人	17,815人	17,378人
各1,500部	各1,500部	各1,500部	各1,500部
2,400部	2,400部	1,500部	1,500部
4グループ43回	4グループ46回	4グループ56回	4グループ66回
施設の運転保守管理	施設の運転保守管理	施設の運転保守管理	施設の運転保守管理
6回	9回	8回	5回
49件	50件	53件	53件
12回40件	12回60件	12回51件	12回60件
155人	136人	171人	153人
5コース延べ149人	5コース延べ93人	6コース延べ110人	5コース延べ100人
9企業	9企業	9企業	7企業
4団体	4団体	4団体	4団体
7団体	7団体	7団体	7団体

創立25周年に寄せて



この10年を振り返って

協会顧問（菊水化学工業株式会社 会長）

遠山 昌夫

皆さん、協会の25周年を迎え、誠におめでとうございます。これもひとえに、役員の方々、賛助員企業の皆さんのご支援の賜と思えます。この5月には賛助員の皆さんから新会長が推挙され、ごく自然な形で私から松尾さんにバトンタッチされ、念願の協会の若返りが図れまして感謝いたしております。

さて、会長職を仰せつかったこの10年を振り返ってみますと、当時は市工業研究所の建物が建て替えられ、データベースの構築、産業技術図書館などの業務受託や賃貸型の都市型工業団地・ナビ金山の管理運営など協会の事業が大幅に拡大していった時でもありました。その中でも、私の提案がきっかけで平成12年度より始まった「中小企業生産基盤技術レベルアップ支援事業」は思い入れのある事業の1つです。会社を定年退職された熟練



名工振の思い出

協会顧問（前事務局長）林 盛彦

創立25周年まことにおめでとうございます。

一口に25年と申しましても、この間にはバブル景気、バブルの崩壊、長期にわたる不況等日本経済にとりましても激動の四半世紀でございました。

財団法人名古屋市工業技術振興協会は昭和54年9月1日に当地産業界・名古屋市の折半出捐により、産業界の工業技術の向上を目的として設立されました。財団法人名古屋市工業技術振興協会は名古屋市工業研究所のサービス部門として、工業研究所の機能強化のために設置された団体であると認識しております。

その後、名古屋市から中小企業技術者研修事業、技術情報交流事業、産業技術図書館の管理、名古屋市工業研究所の施設管理業務を順次受託し、自主事業としては都市型工業団地nabi / 金山の開設等事業拡大を続け、組織も平成5年にほぼ現在の陣容が整いました。

この間私も、平成2年から平成15年まで直接あるいは間接的に事業運営に参画させていただき、大変お世話に

技術者や技能者等の方に予め協会に登録していただき、中小企業への要請に基づき生産現場に専門家として派遣して技術指導を行うもので、利用者の方々には大変好評とお聞きしております。

07年問題とも言われる、これから定年を迎える団塊の世代が蓄積してきた現場の技術、ノウハウをいかにして次の世代に伝えていくかが重要な課題となってきています。最近では、国や種々の公益団体が同じような事業を始めていますが、当協会はこの点、パイオニアと言っていいかもしれません。この地域がものづくりの中心であり続けるには生産現場の技術力を向上させなければなりません。先端技術の開発や新産業の創生も大事ですが、これまで同様に、産業の成長を支える中小企業の現場技術の向上と蓄積はますます重要になってきます。

恒例の新春講演会も毎年いろんな人と会える楽しみの1つでした。まだまだいろんなことが思い起こされますが、名工振協会が役員、賛助員企業、行政等と一体となって、地元企業と市工業研究所との橋渡し役を今まで以上に果たす中で、中小企業に対して一層の支援をされることを期待してやみません。

なりました。

前半は「新生名工振」を旗印に新規事業にも積極的に取り組むことができ、充実した日々を過ごさせていただき、感謝の念に耐えません。

それに引き換え後半は、長引く不況のせいとは申せ、積極的な事業運営もままならず、内心忸怩たるものがございます。

平成6年に2代目会長に就任された遠山会長は事あるごとに「オンリーワン技術の創生」を口にされ、そのために名工振協会はコーディネート機能を強化し、産業界の技術交流を促進すべきである。そのために、賛助会員を500社にするのが強い願望でありました。私の非力のために会員増強どころか、かえって会員を減少させる結果になりまことに申し訳なく思っております。今後、この宿題を完結するために、微力ではございますが側面的にお手伝いをさせていただき所存でございます。

21世紀における製造業生き残りのキーワードは「Speed、Sense、Solution」の3Sといわれます。この時代変化に追随するためには企業間の連携は不可欠であろうと思われます。

松尾新会長のもと名工振協会が産業技術の中核として、その機能を十分に発揮され、ますますご活躍されることを祈念いたします。